



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4529 号 2018.8.5 発行

【社説】週のはじめに考える 思い出そう ムーミン

東京新聞 2018年8月5日

丸くてかわいらしいムーミン。作品が描く童話の底辺には、北欧の人たちが大切にしている寛容の考え方があります。今、思い出したい心です。

「来館者第一号は日本人でした」

フィンランドに昨年六月オープンしたムーミン美術館のミーナ・ホンカサーロ学芸員が開口一番、こう説明してくれました。

ムーミンシリーズの作者トーベ・マリカ・ヤンソンさんはこの国に一九一四年に生まれました。そこに開館した美術館＝写真＝は、関連作品が展示され多くの日本人が訪れる“聖地”になっているようです。



◆戦争の不安が生んだ

日本では愛らしいキャラクターとほのぼのとした世界を描いた作品とのイメージが強いですが、作品が生まれた背景には厳しい現実がありました。

九作あるシリーズの第一作が出版されたのは四五年、第二次大戦中に書かれました。フィンランドも戦争に巻き込まれていました。

「空襲におびえて創作意欲もなくなり、どうしたら心の平穏を保てるかを考えたとき童話の執筆を思い立ちました」

美術館ガイド、常世田美喜子さんは語ります。恐怖と不安が生み出した戦争の影が作品なのです。

第一作はムーミンたちが洪水に遭います。洪水は戦争の不安そのものです。ムーミンとムーミンママがムーミンパパを捜すストーリーは、父親や男兄弟が出兵し母子が残された当時の家庭の状況を反映しているようです。

第二作は彗星（すいせい）が迫ってきます。彗星は広島、長崎の原爆投下の影響を受けているともいわれます。

作品に通底する思いがあります。それは分け隔てなく他者を受け入れるという感受性です。ヤンソンさん自身はスウェーデン語を母語としたフィンランド人です。フィンランド語を使う人が大勢の社会では少数派です。

だから弱い立場の人たちに視線が向く。作品には多くの種族が登場しますが、仲良しです。戦争を経験し、より一層その思いが作品に込められた気がします。

注目する登場人物が第八作「ムーミンパパ海へいく」の魔物のモランです。シーツを頭からかぶったような姿で周囲に不気味がられています。モランを知る者はおらず誰も好きではありません。

ムーミンも恐怖を感じていますが、交流することでモランの孤独感を理解し同情します。常世田さんは「お互いが歩み寄ることで誰もが分かり合えることを悟ることができる。それを表しています」。

他者を受け入れ平等に接する精神は北欧に共通しています。支え合いの制度である社会保障にも生かされています。外国人も受けられる支援は同じです。

残念ながら日本ではこの寛容さが失われつつあるように思えてなりません。

◆不寛容が社会を分断

非正規で働く人が増え正社員と所得格差が生まれています。生活保護受給者への風当たりも強まっている。貧困や孤立の先に子どもたちへの虐待が起こっています。

しかし、貧困に陥るのは自己責任と切り捨てる気分が広がっていませんか。今と将来への不安から、人とかかわりを持つ余裕も関心もなくなっています。

他者への無理解は社会の分断を生みます。分断が進めば、社会から支え合いの気持ちがなくなります。それは社会保障を支える基盤がなくなることでもあります。

その北欧が今、寛容さを試される事態に直面しています。中東やアフリカなどからの移民が増えているのです。フィンランドやスウェーデンでは反移民を掲げる政党に一定の支持が集まっています。両国とも近く行われる国会議員選挙の最大の争点になりそうです。

美術館には高さ二・五メートルの五階建てのムーミン屋敷のジオラマが展示されています。ヤンソンさんが仲間たちと毎週土曜の夜に集まって楽しみながら三年を費やして作ったそうです。「誰でも友達になれるというヤンソンの哲学を象徴しています」と常世田さんは言います。

屋敷では多くの登場人物たちが楽しそうに暮らす。直面する困難を乗り越える力に満ちている。ムーミンを知る人はもちろん、知らない人の心の中にもムーミンは住んでいる。ただ、それは大きくなったり小さくなったりするのだと思います。大きくする心を持ちたい。思い出そう、ムーミン。

大阪 目指すは「甲子園」 支援学校にボッチャ部 毎日新聞 2018年8月4日



練習に励む大阪府立藤井寺支援学校のボッチャクラブのメンバーら＝大阪府藤井寺市で2018年6月8日、芝村侑美撮影

重度の脳性まひや四肢に障害がある人のために考案された競技「ボッチャ」の運動部が、大阪府内の支援学校に初めて誕生した。2020年東京パラリンピックの正式競技で、8日には東京で「全国ボッチャ選抜甲子園」が開催される。府立藤井寺支援学校（大阪府藤井寺市）が初出場し、勝利を目指す。

ボッチャは16年のリオデジャネイロ・パラリンピックで、日本代表が銀メダルを獲得して注目された。日本ボッチャ協会などが主催する「選抜甲子園」はこの年に始まり、3回目の今年は選抜された24校が出場する。

肢体不自由者の特別支援学校の運動部は全国的に少ない。スポーツ庁などが17年に発表した調査によると、7割の学校で運動部・クラブがなかった。だがパラリンピックが注目され、府内7校のうち、今春に藤井寺など2校で運動部としてボッチャ部が創部された。他にもクラブ化を準備中の学校もある。

藤井寺支援学校は卒業生に日本ボッチャ協会の強化指定選手の中村拓海選手（20）がおり、今年1月からの試行期間を経て今春正式な部になった。中学部と高等部の計7人が入部した。

生徒らは週に1回、約1時間の練習をこなす。高等部2年の平野稜さん（16）は「部活ができてうれしい。勝てると楽しいし、『甲子園』でも頑張りたい」と意欲を燃やす。母の華妃さんも「目標ができ、希望が見えた」と喜ぶ。

高等部3年時に、他校との合同チームで出場した中村選手は「学校の部活として、ボッ

チャが広がるのはうれしい。学校単独で出るのは初めてなので緊張すると思うが、多く勝てるよう頑張ってもらいたい」とエールを送る。

同校の生徒の多くはスクールバスを使う。保護者らの迎えが必要になるため、放課後の部活動は難しかったが、中村選手の活躍も後押しした。藤井雅乗校長は「保護者の理解もあり、実現できた。部活では学年を超えて交流でき、チームワークや社会性が身につけられる」と期待している。【芝村侑美】

別名「地上のカーリング」

欧州で考案された競技。白い目標球を狙い、赤と青のボール6球ずつを投げたり転がしたりして、いかに目標に近づけるかを競う。「地上のカーリング」とも呼ばれる。障害に応じ「ランプ」という滑り台のような道具も使える。日本ボッチャ協会の登録選手数は約250人。

自閉症スクリーニング検査、求められる精度の向上

読売新聞 2018年8月5日



※写真はイメージ (Getty Images)

ノルウェー北極大学などの研究グループから、自閉症児の早期発見を目的に行われるスクリーニング検査に関する研究結果が報告された。生後18カ月時点で受けるスクリーニング検査にはパスしたが、その後自閉症スペクトラム障害と診断された子どもは、18カ月時点で既に、社会的コミュニケーション能力と運動能力の遅れが特に女兒で強く、男児では人見知りが強いといった臨床的特徴を示していたという。同グループは、こうした特徴を踏まえて自閉症スペクトラム障害の早期診断ツールをさらに改善していく必要があるとしている。研究の詳細は、医学誌「Pediatrics」（2018；e20173596）に掲載されている。

6項目中、2項目以上の「いいえ」で陽性

自閉症スペクトラム障害は、社会的コミュニケーションの取りづらさがあり、限定的な行動や興味、反復行動などが現れる障害だ。どのような症状がいつ現れるかについては個人差が大きく、必ずしも決まった年齢で症状が現れるとは限らない。この点から、2013年に改訂された『精神疾患の診断・統計マニュアル第5版（DSM-5）』では、発症年齢に関する規定が削除された。

自閉症スペクトラム障害への支援には、早期発見が欠かせない。早期発見を目的に行われるスクリーニング検査には、子どもの状態に関する質問に保護者が回答する「乳幼児期自閉症チェックリスト修正版（M-CHAT）」が用いられる。ただし、スクリーニング検査についての過去の研究は、医療機関を受診した人を対象としたものがほとんどで、一般の人にとって十分な精度を保ちうるかは不明だ。

そこで研究グループは、生後18カ月時に受けたスクリーニング検査で陰性と判定された子どもを、後に自閉症スペクトラム障害と診断された「偽陰性群」と、陰性のままだった「真陰性群」に分け、18カ月時の発達や気質の違いを男女別に比較した。

対象は、ノルウェー母子コホート研究に参加し、生後18カ月時点で自閉症スペクトラム障害のスクリーニング検査を受け、陰性とされた子ども6万8,197人。そのうち女兒は49.1%だった。スクリーニング検査では、保護者に対して次の6項目についての質問が行われた。＜1＞他の子どもに関心を示すか、＜2＞興味のあるものを指さすか、＜3＞興味のあるものを見せに来るか、＜4＞人の真似をするか、＜5＞名前を呼ばれて反応するか、＜6＞指をさしたものを目で追うか。6項目中2項目以上、該当しなかった場合に「陽性」と判定された。

男女で異なる臨床的特徴

その結果、偽陰性の子どもは、真陰性の子どもに比べて、社会的コミュニケーション能力、運動能力の発達に遅れが見られた。この遅れは、女兒で顕著だった。また、偽陰性の

男児は、真陰性の男児よりも人見知りの傾向が強かった。しかし女児では、逆の傾向が見られた。

今回の結果について、研究グループは「こうした特徴を明らかにしたのは、本研究が初めてだ」と評価。さらに「この知見からわれわれは、自閉症スペクトラム障害のスクリーニング検査の感度向上のためには、親への調査で明らかとなる早期に出現する発達の遅れや異常だけでなく、早期マーカーとなりうる男女別の特徴についても理解を深める必要性がある」との考えを強調した。(あなたの健康百科編集部)

旧優生保護法とやまゆり園 横浜で講演会 「差別解消の取り組み 一人一人が考えよう」

東京新聞 2018年8月5日



旧優生保護法の問題などについて語る大橋さん＝横浜市中区で

旧優生保護法下で行われた強制不妊手術の実態解明と、被害者への謝罪を国に求めている「優生手術に対する謝罪を求める会」の大橋由香子さん（58）が四日、横浜市中区桜木町の市社会福祉センターで講演した。

相模原市緑区の障害者施設「津久井やまゆり園」で二〇一六年七月、十九人が殺害された事件の本質を考えようと、障害者団体などでつくる『『やまゆり』からいのちを問い続ける横浜フォーラム実行委員会』が主催。障害者や支援者ら約百十人が参加した。

講演のテーマは「優生保護法は今－優生保護法、出生前診断、そして『やまゆり園事件』」。大橋さんは旧優生保護法の制定過程に触れながら「子どもを産むことが期待される人間と許されない人間を国が分けるところが非常に犯罪的だ」と批判した。

同法は一九九六年に障害者への差別的な条文が削除されて母体保護法となった。しかし、四十八年間に及んだ強制不妊手術の実態は解明されていないと指摘。「国が反省に基づいた差別解消の取り組みをしなかったことが、やまゆり園事件の原因の一つ。差別をなくす取り組みを国や教育・福祉従事者だけでなく、一人一人が考えていく必要がある」と訴えた。(加藤益丈)

車いす搭乗、スムーズに 国が航空各社に設備義務づけへ 伊藤嘉孝

朝日新聞 2018年8月4日

航空機にスムーズに搭乗するための設備のイメージ

車いす利用者がスムーズに航空機に搭乗できるよう、国土交通省は10月から、航空各社に支援設備の完備を義務づける方針を決めた。昨年、車いすの男性がいったん搭乗を断られたり、腕の力でタラップの階段を上らされたりする事態が発生。東京五輪・パラリンピックを控え、バリアフリー対策が急務と判断した。

昨年6月、大阪府の木島英登（ひでとう）さん（45）が車いすで関西空港から奄美行きのパナ・エア便に乗ろうとした際、奄美空港には階段式のタラップがあることを理由に「歩けない人は乗れない」と搭乗カウンターで言われた。「同行者に手助けしてもらおう」と伝え、同行者に担いでもらってタラップを降りた。だが帰りの便では同

航空機にスムーズに搭乗するための設備のイメージ



社委託の空港職員に規則違反だと止められ、車いすを降り、腕を使って自力で17段のタラップを3～4分かけて上がることを余儀なくされた。

こうした一連の対応を疑問視する声上がり、国交省は対策を検討。バリアフリー法や航空法に基づく関連規定を改正し、障害者の搭乗に必要な設備や器具を備えるよう10月から各社に義務づけることにした。

天竜厚生会、定年65歳に 福祉分野の人材確保へ 静岡新聞 2018年8月5日

社会福祉法人・学校法人天竜厚生会（本部・浜松市天竜区）は2019年4月から、人手不足に対応する手段として、全ての正職員を対象に定年を現行の60歳から65歳に延長する制度を導入する。ベテラン職員の経験や専門性を最大限に生かす。同法人によると、定年を延長している小規模な社会福祉法人や施設単位の導入はあるが、規模の大きい社会福祉法人がグループ全体として一斉に定年延長に踏み切るのは全国的にも珍しいという。

事務員やソーシャルワーカー、保育士、看護師など全ての職種を対象にする。現在も継続雇用制度により65歳まで働くことができるが、給与水準は60歳時の7割程度に下がっていた。定年延長後は60歳時点の月額給与を維持し、賞与のみ半減させる。管理職も希望者はそのまま役職にとどまることができる。給与水準を保ったまま65歳まで働ける点を新卒、中途人材の確保にもつなげたい考え。人件費は増えるが、それを上回る効果があると判断した。

同法人の職員は約2400人で、正職員は1100人に上る。同法人は浜松市内を中心に障害者支援施設や特別養護老人ホーム、医療施設、認定こども園などを運営している。

同法人の担当者は「離職率の改善につながり、天竜厚生会の理念や社会福祉の考え方を身に付けたベテラン職員が活躍することは利用者や社会の役に立つはず」と話す。

チェロの音色堪能 整枝学園で演奏会 佐賀新聞 2018年8月5日



チェロ奏者の九十九太一さん（奥）の演奏に聴き入る子どもたち＝佐賀市の佐賀整枝学園こども発達医療センター

佐賀市の佐賀整枝学園こども発達医療センターで4日、プロのチェロ奏者によるコンサートがあった。センターに入所している子どもたち約160人が、スペイン・バルセロナ出身で、国内外で活動する九十九太一さんの演奏を楽しんだ。

九十九さんはバッハの無伴奏チェロ組曲第1番「プレリュード」を皮切りに、ゆったりとした音色で「夏の思い出」「ふるさと」など日本の唱歌も演奏。子どもたちは曲ごとに大きな拍手を送り、最後には歌もプレゼントして感謝を伝えた。

九十九さんの父で、画家の伸一さん＝福岡県行橋市出身＝の絵が昨年、センターに贈られた縁で実現した。障害者の入所施設での演奏は初めてという九十九さんは「音の大きさに驚かせないか心配もしたが、子どもたちの発する空気から、穏やかに聴いてくれているのが分かった」と話していた。

通信制高校、夢の咲く場所 「自分らしく成長できる」 京都新聞 2018年8月4日

通信制高校に通う生徒が増えている。多彩な授業内容や少人数での授業に魅力を感じたり、不登校などを経験して自分のペースで学ぼうとしたりと、理由はさまざま。大きな夢と学業の両立を図ろうとする生徒もいる。現場を訪ね、自分らしく成長しようとする高校生に迫った。

「自分がやってみたいことや、全日制ではできない体験ができる」。京都つくば開成高（京

都市下京区) 2年橋本優美さん(17)は、通信制の魅力語る。国語や英語などの教科以外に、同高では総合的な学習の時間としてガラス工芸や茶道、華道、写真など35講座を用意する。橋本さんは進学を目指すコースだが、別の専門コースの授業も選択できる。「どの授業を受けようか、いつも悩みます」と笑顔を見せる。

モデル活動と学業を両立させようと通信制高校を選んだ宮城さん。「授業に出られなくてもサポートが充実している」と話す(京都市下京区・KTCおおぞら高等学院京都キャンパス)



中学時代、机に座って受ける授業は好きではなかった。将来に明確につながることを学びたいとも思い、同高を進学先に選んだ。

授業でさまざまな仕事に学ぶうち、薬剤師や医療現場の検査技師になる夢を抱くようになった。20人程度の少人数授業では教員に個別に質問しやすいといい、「苦手科目も納得することが増えた。緊張しやすい性格だったが、積極的になった」と話す。

通信制では、近年増加傾向にある不登校を経験したり、学習障害などを抱えたりする生徒も多い。授業後の同高自習スペース。橋本さんと同じ机で一緒に教科書を開いている生徒がいた。2年西村結花菜(ゆかな)さん(16)だ。

西村さんは中学時代、1年の春から冬は学校に通えず、2、3年の間も教室には足を運ばなかった。中学校進学時に別校区に引っ越したため、同級生は知らない生徒ばかりで「人間関係がしんどくなった」という。

同高では必修以外は生徒が選択して時間割を組み立てるので、登校しない日もある。西村さんは「自分のペースで学べる」と同高に進学。はじめは毎日学校に通えなかったが、少人数で受ける授業に「先生と生徒との距離が近い」と感じた。1年の夏休み明け、橋本さんに話しかけられて親しくなった。「通信制には不登校や勉強で悩んだ経験のある人も多い分、みんな優しい」。西村さんは橋本さんと目を合わせ、はにかんだ。

時間割の調整が柔軟な通信制では、学業とともに大きな夢を追う生徒もいる。

鹿児島県の屋久島おおぞら高の生徒の学習を支援するKTCおおぞら高等学院京都キャンパス(下京区)に通う1年宮城叶好(かこ)さん(15)はモデルだ。最近は大手出版社の雑誌のグラビアを飾っている。1日3コマ、週5日通学するコースに通うが、平日も仕事で東京と京都を行き来する。「時間割に余裕がありサポート体制が充実していて、勉強に遅れず済む」。休んだ授業の内容は自主学習の時間を活用して教員や友人に聞き、課題のレポートを作成しているという。

中学生のころから親戚が経営する着物店や美容院などでモデルを始めたが、活動のため土日の部活動の試合に参加できないこともあった。進路を決める中学3年になり「本格的にモデル活動をしたいが、朝から夕方まで毎日学校にいる全日制で大丈夫か」と不安がよぎったころ、通信制を知った。

プロスポーツや芸能活動と学業を両立しようと通信制を選ぶ若者は多い。宮城さんは「通信制は夢を追う人や自分と考えが違う人が多く、刺激的。『自分』を持ちながら、いろいろな雰囲気表現できるモデルになりたい」と未来を思い描く。

公的年金、運用益2.6兆円 2四半期ぶりに黒字に 朝日新聞 2018年8月3日

4~6月期の公的年金の積立金の運用益は2兆6227億円で、2四半期ぶりに黒字となった。年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が3日、発表した。6月末時点の運用資産額は158兆5800億円になった。

GPIFによると、安定した経済状況や企業業績により、国内外の債券と株式の4資産すべてで黒字だった。ただ、期末に向けて米国の通商政策の不透明感に対する懸念が高まり、全体的に小幅な上昇幅にとどまったという。昨年度を通じ6.9%だった利回りは、4~6月期は1.68%だった。

積立金の運用資産別の構成割合（6月末時点）は、国内債券が比較可能な2008年度以降で最低の27・14%。外国株式は25・32%、外国債券は15・34%でいずれも過去最高だった。国内株式は25・55%だった。

<家族のこと話そう>次男の生きざま宝に 怪談でライブ活動・稲川淳二さん

東京新聞 2018年8月5日



次男の由輝（ゆうき）は五年前、二十六歳で亡くなりました。いい子でしたよ。優しい子でした。

頭の骨に変形がある先天性の重い病気でした。偉いのはね、親を恨んだり文句を言ったりするわけでもなく、いつもニコニコしていたことです。元気に生まれてきた人が自殺したり、人を殺したりする時代ですよ。障害のある人の生きる一日は、健常者の一日よりすごく大変なんです。でも息子はその日まで毎日、一生懸命生きたんです。そして私に、世の中にはいらぬ命はない、ということを見せてくれたんです。

彼が生まれた時、私は障害があるということに認めるのが嫌で、受け入れられませんでした。あの子をこの手にかけて殺してやろう、と思ったこともある人間です。なのにあいつは生後四カ月で、朝八時から夜八時までの手術に耐えた。手も足も針や管でつながれ、ちっちゃい体で息をして。一生懸命生きようとしている姿を見た時、すごく自分を責めました。おれはなんてやつだ、最低だと。

別居している女房から何の連絡もなく、住んでいる場所も知らなかったの、由輝には幼いころからほとんど会っていません。不思議なもので、亡くなってからの方が忘れません。毎日朝と帰宅後にお参りし、名前を必ず呼びます。こうやって、あいつの話をする、あいつがそばにいてくれる気がします。

その日は、長男から亡くなった知らせを受け、病院の霊安室に駆けつけました。手を握ると、由輝が五つぐらいの時、病院の廊下を手をつないで歩いたことを思い出しました。あれ以来、手を握ってあげなかったな。そう思うと、たまらなかつたです。

数カ月後、家の近所を長男と歩いていた時、「由輝が通っていた学校だ」と教えてくれました。そばにいたのに知らなかったんです。長男が「由輝ね、運動会で足速かったんだよ」と言うので、「うそだ。あいつ頭手術して、体に管も通っているし」と言ったら「一生懸命走るんだよ。ほかの子を抜いたよ」と。それで運動場をじっと見ていると、そこを走っている小学生の由輝が見えたんです。

さらに長男が「鉄棒も上手だったよ」と言うので、鉄棒をじっと見ていたら、小学生の由輝が鉄棒を握って、私の方を見て笑ったのが見えたんだ。ぐーんと回って逆上がりしたんだ。その瞬間、「おーい、そばにいて見てあげたかった。ほめてあげたかった。おまえは一生懸命生きたんなんだな」と思ってね。

親として何もしてやれず、最低の親なんですけど、息子は私の中に永遠に生きていて、命や人の思いについて教えてくれます。私はすごい宝をもらった、と思っています。

聞き手・砂本紅年／写真・松崎浩一

<いながわ・じゅんじ> 1947年、東京生まれ。タレントとして活躍。55歳からは「怪談家」としてライブを中心に活動している。夏恒例の「稲川淳二の怪談ナイト」は東京都港区のメルパルクホール（8月13、14日）など全国で開かれる。

（社説）子どもの悩み 夏の間に受けとめて

朝日新聞 2018年8月5日

いじめ、級友や先生とのあつれき、勉強、進路——。悩んでいる子にとって、学校を離れていられる夏は貴重な時間だ。2学期が近づくと、そういう子たちは不安定になりやすい。

9月1日は18歳以下の自死が年間で最も多い日でもある。

だから、休みの間にゆっくり気持ちを落ち着かせ、一步踏みだして、だれかに悩みを打ち明けてほしい。そして、大切な命を守るため、相談しやすい環境を整えるのは大人の責任だ。何よりも、親や先生には話しにくいときでも、他の大人が耳を傾けてくれる場があることを、子どもたちに伝えよう。

「チャイルドライン」や「24時間子供SOSダイヤル」のほか、地元の弁護士会や市区町村の教育委員会も、相談窓口や担当者を置いている。

その連絡先をネットでひろめる。チラシにして祭りや花火大会で配る。PTAや自治会などでもできるとり組みだ。

相談をうける人は、事実確認や指導を急がず、まずはじっくり耳を傾け、苦しい気持ちを分かちあうよう心がけたい。

「いじめ対策の法律ができたのをきっかけに、学校現場は親の話はよく聞くようになった。しかし、当事者である子どもたちは十分に話を聞いてもらっていない」。関西学院大の桜井智恵子教授は指摘する。

だから、桜井さんが調査相談専門員をつとめる兵庫県の「川西市子どもの人権オンブズパーソン」では、親から相談が寄せられた場合でも、できるだけ子ども本人に会って、直接話をするようにしている。この川西のオンブズパーソンや東京都世田谷区が設ける「せたホッと」は、公的な第三者機関として、教育や福祉、法律などの専門家をそろえている。本人の意向を踏まえ、学校などに働きかけて人間関係を解きほぐす手助けもする。

「せたホッと」では、弁護士会の法律相談に取り次いだり、学生ボランティアを学校に派遣したりすることもある。

他の自治体もこうした例を参考に、子どもにかかわる内外の機関と連携を強め、相談に備えてもらいたい。SNSなど身近な相談方法を用意する工夫も必要だ。「相談してよかった」と思ってもらうことが次の相談を呼び、多くの子を救うことにつながるに違いない。

親を心配させたくない、弱い姿を見せたくない、一人で悩みを抱え込んでしまう子ども多いと聞く。助けを求めるのも勇気であり、大切な人を悲しませない優しさなのだ伝えたい。

虐待防止

佐賀新聞 2018年8月5日

永六輔・中村八大コンビが東京オリンピックの前年に世に出した「こんにちは赤ちゃん」。親になった喜びを平易な“あいさつ言葉”で紡いで共感された◆しかし、精神科医岡田尊司さんは自著『悲しみの子どもたち』で、虐待に走る何人もの親に出会う中で「親は子どもを愛する—という、ごく当然と思われていたことが、実は当然のことではないのではないか」と感じることもあるという◆もちろん、すべてがそうではないだろうが、家庭が密室化した現代社会で“親という名の十字架”を背負った親が増えていく。そんな親たちは周囲からしっかり支えられていないと、暴力の矛先が小さいわが子へ。大阪で小3男児を死なせた容疑で両親が逮捕された。男児は胃袋が破裂していたという◆「許して！」と命乞いをしていた船戸結愛（ゆあ）ちゃん（当時5歳）事件もまだ記憶から消えないが、来年度から22年度までに、虐待から子どもを守る児童福祉司を2000人増員するという。児童相談所の体制強化に向けた国の緊急対策。とても良いことだが、虐待の責任を児相や児童福祉司だけに背負わせてはいけない◆地域の誰もが社会の宝物といえる子どもたちに眼差（まなざ）しを注ごう。今や行政機関だけでは手に負えないほど、親から虐げられている子どもが多いということを知っておくべきである。（賢）



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行